

科目名	哲 学	教員名	はしもと 橋本	まこと 信	開 講 コース	作物生産 花 園 芸	2 年次	前 期
<p>・目的と内容</p> <p>この講義の目的は「よく生きるとはどういうことか？」を一人一人が深く主体的に考えることを手助けすることにある。「生命と環境の問題」に大きな関心が払われている現代において、個人や地域、社会や国家、そして地球規模で、どのような生活を私たちが営むのかが問われている。今まで当たり前であったことに疑問が寄せられ、吟味がなされる。このような問いかけと吟味の過程に求められるのが哲学的思考である。</p> <p>哲学は人間が自己と世界を総体的に把握しようとする知の営みの一つである。この講義では、人間として生きる上で関わる多様な物事を原理的に把握する思考へ向かうことによって、私たちが人間としてどのように生きるべきなのかを幅広く考えることをねらいとしている。</p>								
<p>・授業計画 [単位数：2 単位、授業週数：15 回]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学とは？～自由な学問としての哲学 2. 日常の知と科学と哲学～人間の知のあり方 3. 日常の知と科学の知 4. 科学の知と哲学の現代社会と子ども・ 5. 人間とは？ 6. 生命と人間 7. 文明と人間 8. 人間と人間性 9. 人間性と人間関係 10. 社会とは？ 11. 社会の近代化と現代社会 12. 現代社会の諸問題と行方 13. 自然とは？ 14. 共生と融和 15. 生命と人間のための哲学へ 								
<p>・講義の進め方</p> <p>対話型の講義を目指す。授業時の質疑応答やビデオ視聴小テスト及び読書レポートなどの提出に加えて、様々な小テストも併用しながら、それぞれのテーマを一人一人じっくりと考えていくことに主眼を置き、自ら設定した課題のレポートを最後にまとめてもらう。</p>								
<p>・試験と成績評価</p> <p>成績評価は、出席30%、小テスト40%、読書レポート10%、課題レポート20%で行う予定である。詳細は前期・後期初回授業時に説明する。</p>								
<p>・担当教員から受講生諸君へ</p> <p>哲学においては知識を暗記することは問題ではない。何をどれだけ知っているかではなく、何を問題としてどのように考えるのが重要である。主体的に考えようとする意欲と姿勢が哲学の授業の面白さを左右する。</p> <p>なお、以下に示されているように、基本的な参考文献を挙げているが、このほかの参考文献は授業時に紹介する。</p>								
<p>・使用教材</p> <p>教科書：指定しない</p> <p>参考書：『西洋哲学史』熊野純彦著（岩波書店）『哲学ってなんだ』竹田青嗣著（岩波書店） 『心の起源』木下清一郎著（中央公論社）『現代社会の理論』見田宗介著（岩波書店） 『定常型社会』広井良典著（岩波書店）『応用倫理学入門』加藤尚武著（晃洋書房）</p>								